

令和 8 年度 学校自己評価計画書

石川県立七尾特別支援学校

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
1	教科指導の充実 と自立活動の指導の充実	①	自立活動について、学部研修会やミニ研修会を通し、基本的な内容を理解し、実態把握、目標設定、指導、評価ができる等、各教員の指導力向上を図る。	研究研修課	児童生徒の実態把握から評価までについてや、他の教科等との関連などを課題だと感じている教員が多い。また、児童生徒自身が課題意識を持ち、取り組むべきであるが、現状では一部にとどまっている。	【努力指標】 自立活動の指導力向上を目指し、研究・研修活動に取り組む、基本的な内容の理解につながっている。	自立活動の基本的な内容について「理解できた」と回答した教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (8、12月)
2	地域社会との連携	①	地域に開かれた学校教育の展開を目指して、地域住民に本校の教育活動を紹介し、連携や児童生徒が地域貢献できる活動につなげる。	総務課	これまでの取り組みでは、児童生徒の成長や保護者、受入先からの評価についてを主な判断基準とし、概ね目標を達成している。 しかし、学校所在地の徳田地区（下町、白馬町、徳田町）との関わりは希薄になってきている。本校の教育活動を理解していただき、児童生徒が地域に貢献できる活動を構築する必要がある。	【満足度指標】 学校は徳田地区（下町、白馬町、徳田町）住民に対し、本校の教育活動を理解できるような広報活動を実施している。	学校だより「すみれ」にてアンケートを実施し、本校の教育活動を「理解できた」との評価した地域住民の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	地域住民を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)

重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実施状況の判断基準	判定基準	備考
3	安心・安全な学校づくり	①	学校からの情報提供や保護者からの調査回答等を確実なものとするため、課題を把握し、方法や内容等が適切であるか、保護者アンケートをもとに見直し、改善を図る。	情報教育課 教頭	学校からの情報提供の連絡ツールが変更になり2年が経過し、紙媒体での案内、調査はごく一部となった。しかし、未確認、未回答の案内・調査回答も一定数ある。確実に効果的な情報提供や調査回答に向け、再度、現状を把握し保護者のニーズに応じたものとなるよう課題を改善する必要がある。	【満足度指標】 学校からの情報提供や調査回答方法等を見直し、改善に取り組んでいる。	学校からの情報提供や保護者からの調査回答方法等について、「改善が見られ、適切かつスムーズである」 回答した保護者の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	保護者を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)
		②	安心安全な教育活動が展開できるよう、現在実施しているヒヤリハット調査に加え、校務運営上の様々な事故やミスも調査する。課題を改善し、事故の未然防止に努める意識を高める。	学校安全課 各課 各部	児童生徒のけが等に直結するような、ヒヤリハットの集約、報告は実施しているが、校務分掌や学級経営上の事故は重大なもの以外、全体に共有されないことが多い。これらを含め1年間のヒヤリハットを集約、分析、報告し各教員が事故を未然防止する意識を高める必要がある。	【努力指標】 様々なヒヤリハットや改善案の報告を基に、事故の未然防止に取り組んでいる。	様々なヒヤリハットや改善案の報告を聞き、「自身の事故の未然防止につながったと感じている。」と回答した教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】 C以下の場合は、取り組みを再検討する。	教員を対象としたアンケートによる評価 (7、12月)